

代表質問

問 これまでの財政計画・見通しについて

答 一定の評価はします



光風会代表 岸本 義明

問 去る3月議会で私の質問に対して前市長は「本年度が借入残高のピークでこれ以上増えない」「平成25年度には基金に頼らない財政運営が可能になる」「実質公債費比率も28年度には18%を下回り健全自治体になる」「第二の夕張市には絶対ならない」との財政見通しを示された。その裏づけは財政当局が作成した「財政健全化計画」「公債費負担適正化計画」等です。それらの計画並びに前市長の財政見通しについて市長はどのように評価し、どんな見通しを持っていますか。

市長

一定の評価はします。しかし、経常収支比率

や実質公債費比率をみても決して健全ではないので、いろんな工夫をして地方債の圧縮を進め、計画の1年前倒しを指示しました。

問 市長は選挙中「子どもや孫が悲しむ760億円の借金状況」と批判されましたが、その借金の中には水道で118億円、下水道で179億円など、子どもや孫までその恩恵に浴する事業に使った借金もあります。借金の中身について十分検証した上での批判だったのですか。

市長

全体的には理解しておりますが、起債の身について具体的に検証はしていません。

問 徹底的な事業見直しと言われていますが、議会が承認した今年度の予算の中に、無駄だと指摘する事業はありませんか。

市長

各部局から説明を受けているところで具体的に申し上げる段階ではありませんが、木材供給センターや和弘美術館買取り事業は、市民に対する説明が不足していたと思います。

問 市長に立候補するにあたっては、是非ともこんなことをやりたいという熱い思い、抱負があったと思いますが、新市長として是非とも早急に実現したいという新規施策はありますか。

市長

地域経済の活性化対策などが必要であり、現状を認識しながら概ね半年を目途に新規施策を出していきたいと考えています。



木材供給センター造成風景

問 木材供給センターについて。市長はこの事業の趣旨・目的を十分理解し賛同していますか。

市長

この事業は六粟の林業にとって大変重要な事業であると理解しています。経済環境は厳しく、また、既存の流通加工センターとの役割分担、販売の課題もあり、市としてこの事業を成功させるために県と十分協議して対応していきます。